

私のカルテ

No 4 1 6

不整脈

津島市民病院
循環器内科部長

森島幹雄

皆さんは普段、ご自身の心臓の鼓動を感じることはありませんか？運動をしたあとに、心臓が早く打ってドキドキと感じた覚えはだれでもあるでしょう。でも、運動もしていないのに急に心臓が早く打ったりしたら、びっくりしますよね。このような「脈」についての症状で、意外と多くの患者さんが病院を受診されます。今回はこのような「脈」のトラブルについてのお話です。

ドキドキするという症状は、病院では「動悸」と呼ばれます。動悸の原因には、大まかに次の3つがあります。1つ目は、心臓自体に問題があって、実際に正しい脈が作れていない場合です。本当の意味での「不整脈」といってもいいのかもしれませんが。2つ目は、実は心臓ではなく他の臓器に問題がある場合です。具体的には、胃潰瘍で貧血になっていたり、肺炎で血中の酸素濃度が低くなっていたりする場合です。これらの場合、時には心拍数が100以上となることも珍しくはありません。しかし、これらの場合心臓は、薄くなってしまった血液や、少ない酸素を、少しでも多く全身に届けようとエンジンの回転数を上げているのです。ですからこの場合は、元の病気の治療が重要で、心臓に対して治療の必要はありません。そして3つ目は、不安やストレスなど、精神的な要素が関係するケースです。夜の静かな時間になると動悸を感じ、なにかしているのを忘れているということも多いようです。夜間に時間外診察室を訪れることも多く、実際に心電図をとると脈はきれいで問題ありません。睡眠不足になっていないか、仕事が忙しすぎないか、などお話をしていると、自然と動悸が治まることが多いように思えます。

次に、疾患としての「不整脈」について少し詳しくお話します。不整脈は、脈が飛ぶもの、脈が速くなるもの、脈が遅くなるものに分類されます。脈が飛ぶものは、「期外収縮」とよばれます。予定外のタイミングで心臓が収縮するという意味です。多くの場合はあまり重篤ではありません。24時間心電図検査（機械をつけて帰宅可能です）を受け、どのような不整脈がでているか確認することが有効です。次に脈が速くなるもの、「頻脈」と呼ばれます。典型的には、突然動悸が始まり、終わる瞬間がわかる

場合もあります。多くの種類がありますが、重篤なものでは動悸とともに立ち眩みや失神がおこる場合もあります。そのような症状がある場合には早めに病院を受診してください。またこのグループには「心房細動」という不整脈が含まれます。脈を打つタイミングが完全にばらばらなことが特徴で、多くの患者さんのいる不整脈です。失神などの強い症状を出すことはあまりありませんが、発作が多くなると、脳梗塞を合併したり、心臓の動きが低下することもあります。脈が一定でないと感じたら、心臓機能のチェックも含めて検査を受けられることをお勧めします。最後に脈が遅くなるもの、「徐脈」と呼ばれるグループです。心臓内の、脈を作る組織や、脈を伝える電線が傷み、心拍数が低下している状態です。そのため高齢の患者さんに多いのが特徴です。ふらつきや息切れ、手足のむくみがある場合に、治療の対象となります。残念ながらお薬での改善はなかなか見込めず、根本的な治療はペースメーカー手術となります。患者さんの生活スタイルや希望に沿って、治療内容を決定していきます。

ざっと「脈」についてお話をさせていただきました。動悸を感じたことのある方の中には、突然心臓が止まってしまうのではないかと不安を感じた方もおられるかもしれませんが。多くの不整脈は、突然死と関連しません。脈について心配なことがあれば、ぜひ、かかりつけの先生や市民病院にご相談ください。

